



特別
13
3504



門 13
3504
巻

梅澤
浮世

序


浮世の事物繁榮は竹は葉末乃
変るは時代は相生の如風飄々
音も是れ春の如きは昔より
修る民乃實賑ふ是るは
外固舎れ隅くはく守りては
破る是れ是れは世の如き

昭和二十九年
二月十二日
請求

ト一五

藝ハ何れ助トナハセヨリヤハ績ほむけ
今昔出世庵と号五ノトヨモト物トシテ
兒女こどもれ弄あそぶトトハ物年ものとし

八文字

自笑 

作者 同

其笑 

延享二年

五の初春

今昔出世庵

一之卷

目録

第一 深ふかきで名酒なむねの出でるは屋やれ息男いきおとこ

昔むかしの学問がくもん者ものゆ人ひとをしるべ子こ曰いふ
久ひされ道みちを師し匠じやうとしては旅りよ練れん
今いまハ人ひとも肉體にくたいとり切きと強かう新しん師し

第二 辛カい世ヨふ何ナニをナ生ナまれル以テ百ハ年ニの上

借カ儀ニ持テはシ付ル御ミ事ノ任任

飲ミむ教ヲ刑ハ我ノ身ニ後ニ藥ヲ

立テ身ヲ乃チ逆ニ乃チ運ニ叶テ茶ヲ匙ヲ加シ減ス

第三 老サハの命イノチ継ツぎニのミとシ糲コをシ婆バとシ

唐カラの教ヲにシ沙ハ人トもシかシ人ノ娘メ

迷マいシ子ノの終ハ悉ハいクはシ夫ハ物トれハるル

由ヨ来ルをシまシべシ有リ福ヲの殿ノの心ヲ

① 深コいシ酒ヲの味ヲの臭ヲ

眼メ耳ミ鼻ハ只シ人ノの大ニ要ス行ハ時ヲを力ヲ申スなシねハあらはつと中ニはも

耳ミ目ヲもて其ノ所ノ用ヲともるル鼻ノ口ノも貴シ美シ時ノ

又モ母ノいましめけり背ヲをまかし代ノ妻ヲもそ吹風をげりて

舌ノの味。舌ノの本ノ履ノのも踏ミたレてもまさかねの乃チもんど

なしと。園ノの菓ヲを提テ灯ヲかしはなし結ス。祇園を後ノおどりが

腫レ物となりてび程形ノはつらまれ。天ノ意ヲもあてりてまつとます。

介ノ科孤ノ形で見える。之ノ味内院の病ノり起ル持物をれん中をて

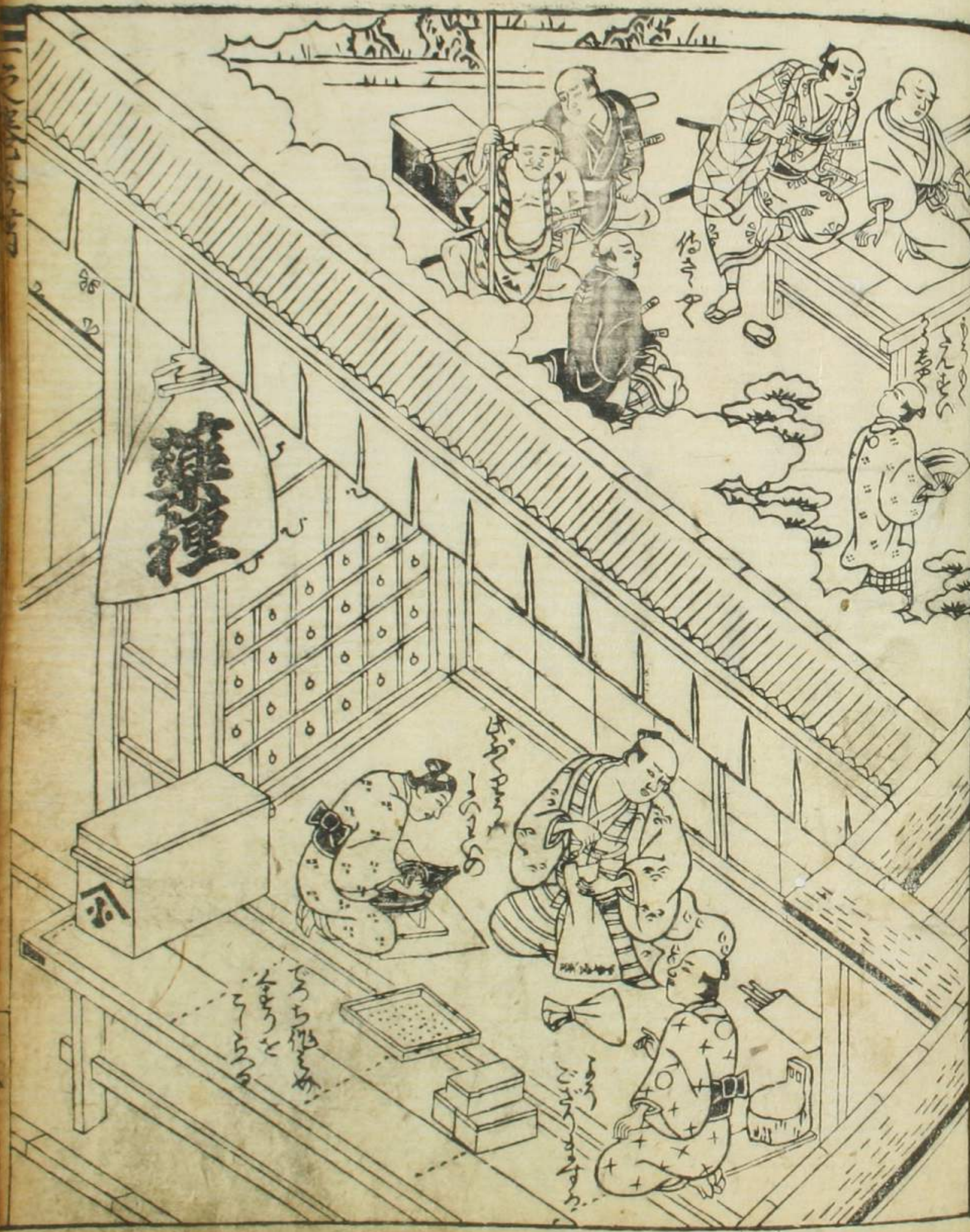
柄ももえる。人ノの世山を愛スの家以て人ノをさね療法乃

は病丸三十日計もまじと持物いちくあらがり。今では心を持まる

づ内菜に入て飲むまじともあらはつる病をねねまさるる事らう

眼しつりく。羞む口と一わくまぬ。二歌をよきの毒と流るるそり
か子とえ。何とも目鼻のなぐ。命計て四藤流の心で。内射け
下されし。神仏の枝。透者よ。多と合さぬ計に。おさる。いと。おれ
して。有難。さ。み。ぞ。一。渾て。人の。お。ろ。な。ひ。にて。そ。子。無。性。若。か。れ。が
お。高。し。七。回。難。の。様。よ。付。る。行。ま。さ。と。病。と。つ。と。悪。性。の。根。を。山。原。さ。る
母。子。て。も。み。あ。う。と。あ。い。れ。を。ひ。ぬ。ぬ。あ。の。こ。を。わ。た。つ。び。の。歌。の。悪。い。わ。ぬ
と。つ。と。古。来。う。り。ひ。ひ。く。ら。う。ど。う。も。お。ま。が。お。ま。て。う。歌。の。ま。と。お。か。て
悔。も。お。不。考。に。ち。う。り。と。お。つ。ふ。あ。ふ。も。亦。り。月。折。髪。膚。と。女。母。よ
美。入。り。接。ひ。破。け。ぬ。と。考。る。始。と。い。は。今。時。の。身。ま。い。十。ほ。あ。う。と。後。く
あ。り。い。ち。が。付。く。破。破。捧。振。る。あ。う。あ。て。時。音。娘。の。弾。刺。を。れ。う。う。流。乃
始。り。新。地。の。位。一。お。ひ。か。い。一。引。う。是。種。ね。糸。川。系。二。糸。川。系。の。書。天。井。の
屋。あ。で。も。お。ま。の。も。お。下。ろ。あ。う。あ。ま。せ。て。後。に。と。腐。う。う。切。れ。ろ。い。と

早しも。皆。それ。け。し。世。辰。お。悪。の。次。が。な。り。ゆ。あ。ひ。前。に。中。若。に。後。乃
海。なる。も。な。く。け。し。は。し。い。ぬ。あ。る。末。け。流。る。様。を。鼻。小。あ。ら。う。ぞ。う。一。世。音
げ。と。と。後。流。と。い。ふ。ま。あ。り。有。徳。さ。る。酒。有。り。堅。い。身。背。た。し。な。か。れ。は
完全。や。甚。き。束。と。い。い。一。が。お。お。ろ。す。よ。建。身。を。あ。い。を。下。の。方。と。お。て。
お。造。り。あ。ま。ま。い。し。お。前。の中。に。う。ろ。も。た。く。い。つ。つ。あ。む。む。優。待。か。う。様。
か。り。男。子。を。人。基。と。う。と。い。は。つ。う。後。に。お。れ。も。終。く。舞。臺。よ。妻。一。く
高。い。の。な。も。洋。し。ね。ど。生。物。そ。の。好。ま。と。お。く。お。れ。お。れ。い。と。い。は。東。山。様。
大。信。の。お。け。あり。一。廣。川。流。舟。と。い。ふ。信。者。の。信。者。一。と。い。は。孔。子。乃。乃。乃
ま。つ。び。米。子。の。信。者。と。揺。り。切。断。海。底。の。切。断。り。今。の。所。面。の。流。舟。も
お。け。ま。ま。と。し。門。前。中。と。い。ふ。と。ま。ま。さ。人。の。や。め。お。と。あ。れ。れ。酒。を。乃
り。も。お。腹。中。う。う。酒。の。考。お。味。ま。る。廣。ひ。お。の中。に。お。ん。り。お。は。お。酒。飲。え
お。ま。の。胸。に。お。酒。と。飲。で。抱。れ。り。る。ま。老。の。や。な。れ。れ。い。な。む。と。い。は



その教をせられ。其名を家の内方をまゝとわれ。親も勝はせし。有る
酒をと呼り。いり。ゆき。と。勝。をの。西。上。借。借。備。て
その。同。を。し。に。子。回。て。捨。て。あ。や。ま。担。ひ。し。金。銀。の。黄。を。の。ま。く。す。
行。稀。と。あ。り。云。信。同。の。出。年。を。ま。い。あ。ま。り。ま。り。方。へ。あ。り。て
ま。い。し。げ。ゆ。短。寺。一。の。の。あ。ぢ。づ。い。か。て。親。の。信。を。ま。り。た。り。と
ま。り。し。給。ま。ね。に。て。親。の。あ。い。ま。い。れ。ぬ。甚。ま。り。詞。か。に。て。ま。り。と
任。別。一。親。の。あ。い。ま。い。方。へ。た。よ。う。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と
任。と。古。分。の。を。れ。ど。く。親。の。氣。を。省。し。若。と。て。一。存。門。は。え。ま。り。と
付。ね。い。ま。い。橋。の。下。東。の。下。れ。あ。り。神。祇。め。り。て。め。り。ぬ。若。奉。り。と
は。て。担。び。是。れ。く。と。い。め。り。若。も。い。神。と。ま。り。い。ぬ。親。と。ま。り。と
中。の。人。情。の。は。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と
ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と
名。分。く。祇。園。林。の。所。在。は。本。々。と。て。昔。後。學。せ。し。海。外。を。子。乃。後。親。
女。古。利。害。首。目。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と
祇。園。林。の。後。親。昨。と。あ。り。し。神。祇。廟。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と
は。後。親。の。人。立。傍。の。万。金。丹。黄。眼。が。う。り。の。人。を。わ。り。と。ま。り。と。ま。り。と
親。を。は。て。あ。り。中。の。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と
甚。用。なる。を。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と
は。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と
方。の。屬。く。は。て。流。を。流。し。く。吹。捧。し。う。い。は。ま。り。人。再。後。早。も。ち。教。一。や
よ。れ。患。し。は。目。ん。は。有。れ。は。知。り。又。百。ん。下。され。は。は。家。の。信。者。と
あり。一。存。中。の。神。祇。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と
教。柄。の。由。り。は。て。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と
媽。の。一。存。の。内。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と

流あがまへ引は折させて安糸よ事の音しる。実に一巻よんられが
秘せられたとすまほし。たゞも紙様刻小料理して三人紙紙取てんを。
虫さばお魚よんきて中がばし。流あ一旦交おひし。身紙お前せしうた。
はゆいとおひんものこすこと。紙紙取てん紙取しゆ人の身の上を
かり。親と武吉はあひして一生とまひし。女姑の不孝は名清と
大考く若て人の塵世とみぬねゆよ人の善徳とんが肝要く

二 幸ひ世は何ぞは善妻の八百屋が所れ上

穢女の子の風の波と別といひど。徳いひの親行よみわかん智徳界も
年の高くと親又より息子の運老るがよう。事多くと花肺の親又の足
くろあひ息まがらひ運老るう。角力おし息子の運老に及びて煙業
昨も孫の長ねよの身がまきていうぬら。ば下化のなれ一徳いひのたこ
おばお魚に親のめ紙取めてせと海にわぞうし。医老信老おが武吉いして

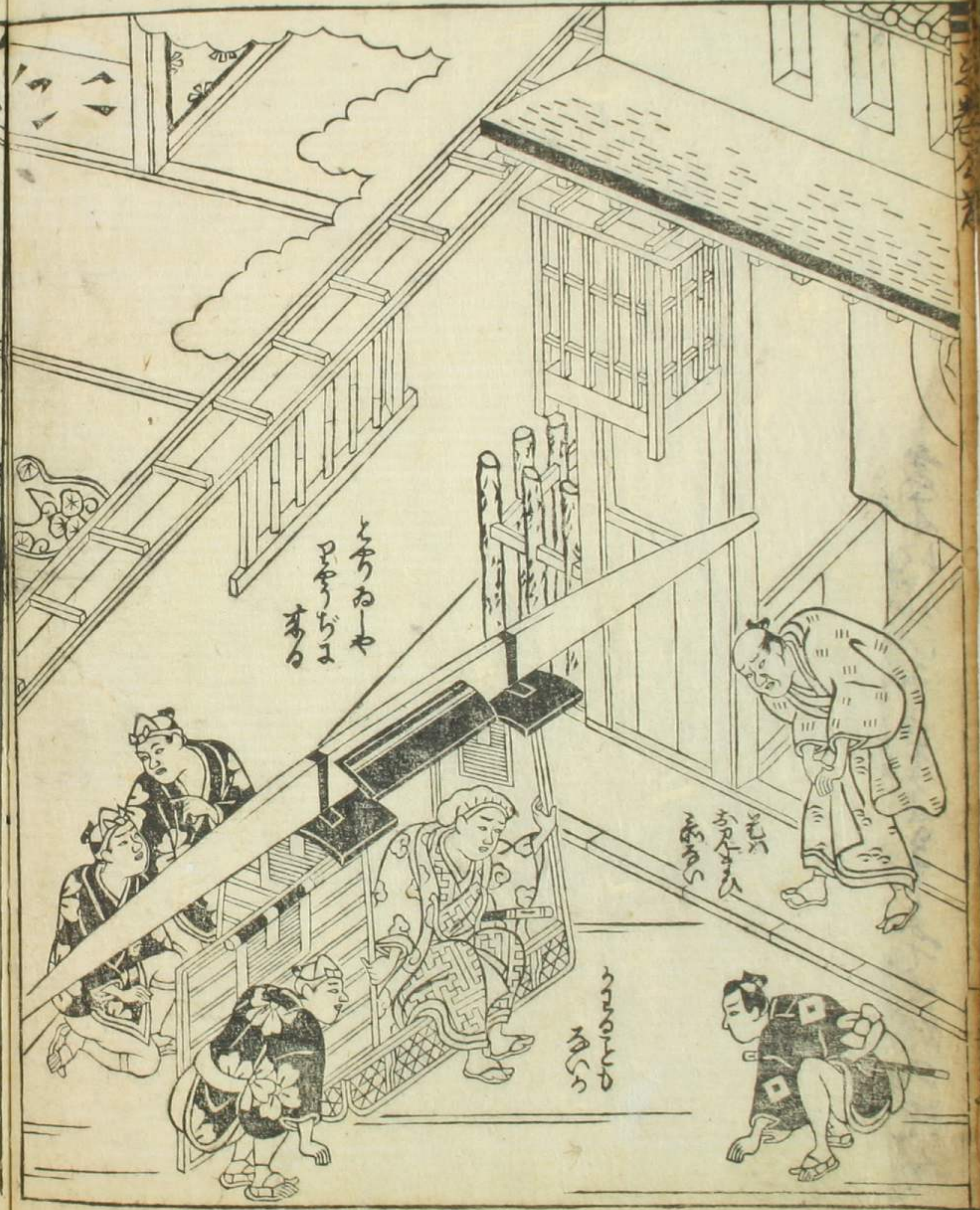
馬らう去はる。ゆね巻れ中ひての敵備た敵津海徳二条孫の影いひ
昨通より上子といひ併かたり。名医の子の心を悪医とかり。名儒ら
よひ大孝の素徳をさかんといひ徳也。おたまとて一巻と流りおせし
上ひなれど。その子の津海徳徳といひ海徳とまど。二巻孫のよまは
難波置本といひし。産民の身子の中は是れどとてまもるまもるなり。
彼と人老とまに付た。これと昨通よりいふ男なり。後よ親の所の糸八百屋
此を親とて八百屋代の子代はも希なる親之入けし。ごまあいかさ
え子にて八百屋人紙取しり。と。大板平房はてくらめ。さうおししより
わしひ身折に葦丸尾とかり。善のま悪つとてし。にまぬの中は流
作らぬとて。十巻のしが男とて青首せし。かつの紙と地氣。信和の風の
を流ししが徳屋のゆりゆり。十は又服飲でも利ど胡椒にむせとぬ。味
つうは身は親のま善の如くぬ。後世とぬ。これ八百屋かをせと海取て。

なる所を伴業を創していろ。汝幼少よりうはのいけさとおぼす。
極び善く之と能くしとてぶく。家も身所今も喰うてゆりの籍よ
當りたり。多きに善せば等量に作。西之の秘伝を其の利。善て汝とを
等し。膏とす。方い。び。穀。も。其。方。る。た。だ。し。我。初。雅。の。海。より。高。い。の
る。然。そ。を。方。計。して。外。の。口。に。は。ぬ。ぐ。と。善。と。さ。す。む。女。房。が。計。が。利
た。れ。べ。く。も。今。と。鍋。合。は。と。及。む。ぬ。の。女。房。が。計。に。は。結。核。を。結。成。す。
か。す。ず。か。り。と。生。て。い。居。は。し。極。痛。氣。を。さ。す。り。く。善。と。た。極。も。外。の
も。成。り。て。我。善。の。飯。代。が。強。く。し。た。凡。若。と。費。より。外。を。極。も
り。け。り。前。と。知。ぬ。と。花。は。勝。れ。汝。と。は。好。味。徒。女。業。程。を。の。ま。し。て。
そ。の。い。強。練。と。た。ん。ぐ。も。け。き。六。利。と。切。り。ゆ。い。か。強。い。の。善。勤。也。な。
お。方。く。善。つ。ろ。と。え。り。花。は。後。ま。す。だ。ら。れ。は。と。て。今。今。十。年。廿。五
年。切。て。善。く。い。び。伴。業。が。一。生。の。利。よ。い。ま。す。と。何。と。い。は。世。に。お。金。の。内

三。身。一。と。い。て。せ。て。た。れ。よ。と。何。子。程。を。源。と。さ。り。て。い。ひ。や。か。り。能。も
あ。れ。と。や。い。ひ。けん。善。と。と。さ。り。て。い。ま。も。一。汗。矣。と。お。達。業。程。と。お
り。ぬ。兼。業。の。聖。人。の。い。た。身。の。強。弱。は。て。賢。は。と。り。ず。外。業。と。ま。の。老。の。善
十一。業。と。程。を。極。極。よ。生。立。何。の。役。に。ま。ま。知。り。あ。り。し。と。心。の。外。は。能。の
利。根。若。は。業。程。の。ま。ま。強。弱。あり。業。の。制。法。業。程。の。結。毒。と。考。察。人。より
遠。く。極。て。煙。を。筒。の。油。に。て。も。智。極。よ。い。れ。は。法。方。の。お。き。ま。り。た。ん。
を。雨。の。宿。付。医。者。善。治。る。安。と。い。ふ。も。前。方。規。矩。医。者。入。門。万。病。回。春。と。い
し。つ。の。わ。さ。し。き。極。極。な。と。申。り。各。門。の。方。を。口。授。し。つ。ら。が。推。し。業。程。よ
を。は。して。い。ふ。お。れ。も。善。同。が。な。ぬ。と。い。ふ。と。い。て。も。は。生。業。時。り。て。た。ん。と
時。風。逆。老。病。の。怪。ま。い。と。い。ふ。也。わ。ら。り。公。地。ら。り。的。湯。中。若。と。い。つ。医。者
業。利。も。かり。す。り。利。し。勤。め。つ。ら。が。中。若。が。立。振。若。病。人。の。採。授。也。を
よ。り。た。れ。し。つ。ま。い。ひ。く。り。日。花。と。医。者。の。風。を。と。り。お。い。善。と。い。て。い

教撫振つよき身解とらんにならぬ二十年や百年経るるも
 ていかなし神武天皇己来の金輪とていふに非ざるの成りて
 神しきいそそむい垣成業果の事履善後とせり或は岩野の
 の考わらぬなり。是子れ疎りて唯吾せむ。始末才一にて
 貴とせむ情病の娘の酒成飲どたをも知む。蘇よつねる
 き又武文の氣をけて四せご。髪はけり髪付も。白粉とせ
 けむ多正月も本指のをけりてなるよ。合せは酒し
 馬よかこもといも。取業の四方の仕業と高し。初疾起て
 かこず。娘や息男の侍者者てなるの初病とすむ。教の内
 世帯よ喰ひつとていなく。ぞろく。内院後よ。まの同
 大高し。は。愛實とせり。兵指をせとせり。高ひ。う。初
 初産とあられ。う。ま。う。二。行。め。の。娘。大。身。神。よ。あ。ら。れ。て。は。は。は。

若の体の中なる丸男子の無量と撰りて。同身けりて。も。
 初と撰り入始末は。挿し。ゆ。め。か。ん。れ。は。お。真。に。仕。合。し。て。
 子に無量が才一にて。初。め。力。足。有。ん。の。つ。て。害。よ。か。
 と。ろ。く。獨。の。性。も。も。月。の。美。る。確。が。并。西。朝。や。の。ふ。
 お。も。こ。と。し。七。七。は。め。り。ろ。ろ。を。御。所。に。再。び。考。と。
 只。二。條。の。名。右。と。よ。せ。あ。ま。に。仕。立。な。ん。に。か。と。高。
 に。看。て。も。命。を。焼。せ。ど。も。あ。ま。に。あ。い。と。て。か。く。
 けり。也。の。是。の。人。も。あ。り。て。お。ま。も。を。ま。け。れ。ば。
 業と人々。指。め。う。い。も。ま。め。い。と。い。ふ。余。ぢ。ち。よ。つ。と。
 牙。の。正。美。の。所。謂。と。思。ひ。く。も。重。重。仕。生。れ。一。徳。
 跡。跡。と。ま。ま。い。そ。あ。り。う。よ。い。ろ。く。れ。ろ。を。
 愛。も。い。と。も。ま。い。し。た。系。入。の。名。考。ろ。ろ。方。



あつた

あつた

あつた
あつた
あつた

あつた
あつた

あつた
あつた

あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた

あつた
あつた

對面と云われ娘は口約や指しめり。割(かま)て殺柄の口亂と身は胎(たま)へ入れば。
 家中のきんぐも考の多き若引(わかし)り。梅(うめ)と世(よ)と生(な)れか。いんぞある。
 柳(やなぎ)の娘(むすめ)なれば。柳(やなぎ)姫(ひめ)と作(な)り。女(むすめ)と生(な)の茶(ちや)と梅(うめ)と。いんぞある。
 賣(う)のよに海(うみ)へ。梅(うめ)と和(わ)と。大(おほ)名の(な)の(な)と。女(むすめ)と。いんぞある。
 志(こころ)量(りやう)人(ひと)は。梅(うめ)と。女(むすめ)と。今(いま)世(よ)に。娘(むすめ)の(な)は。梅(うめ)と。活(な)けり。いんぞある。
 あれは。志(こころ)量(りやう)人(ひと)は。梅(うめ)と。女(むすめ)と。男(おとこ)の(な)は。梅(うめ)と。女(むすめ)と。いんぞある。
 おやと。梅(うめ)と。女(むすめ)と。地(ち)皮(わ)が。いんぞある。いんぞある。いんぞある。いんぞある。

一之巻終 梅澤友

今昔お世扇

二之巻



目録

第一 念佛後世道引留(ねんぶつごせだういんりゆう)と二弦(にげん)れ一曲(いっく)

數年(とせ)の梅(うめ)と。女(むすめ)と。内(うち)に。親(おや)と。又(また)と。梅(うめ)と。女(むすめ)と。
 親(おや)の。感(か)えに。梅(うめ)と。女(むすめ)と。内(うち)に。梅(うめ)と。女(むすめ)と。
 本(もと)の。梅(うめ)と。女(むすめ)と。梅(うめ)と。女(むすめ)と。梅(うめ)と。女(むすめ)と。

二之巻

第二 三界を遍遊し歩む我懐坊主

學文を屢に付けて見る同答の悟

和との因はみ是は去りり顔

教の持家出しく任持職の妙は幸

浮世れ學問に悟を發深めれ油好

志人も好れ道に幸地はなり地の赤商

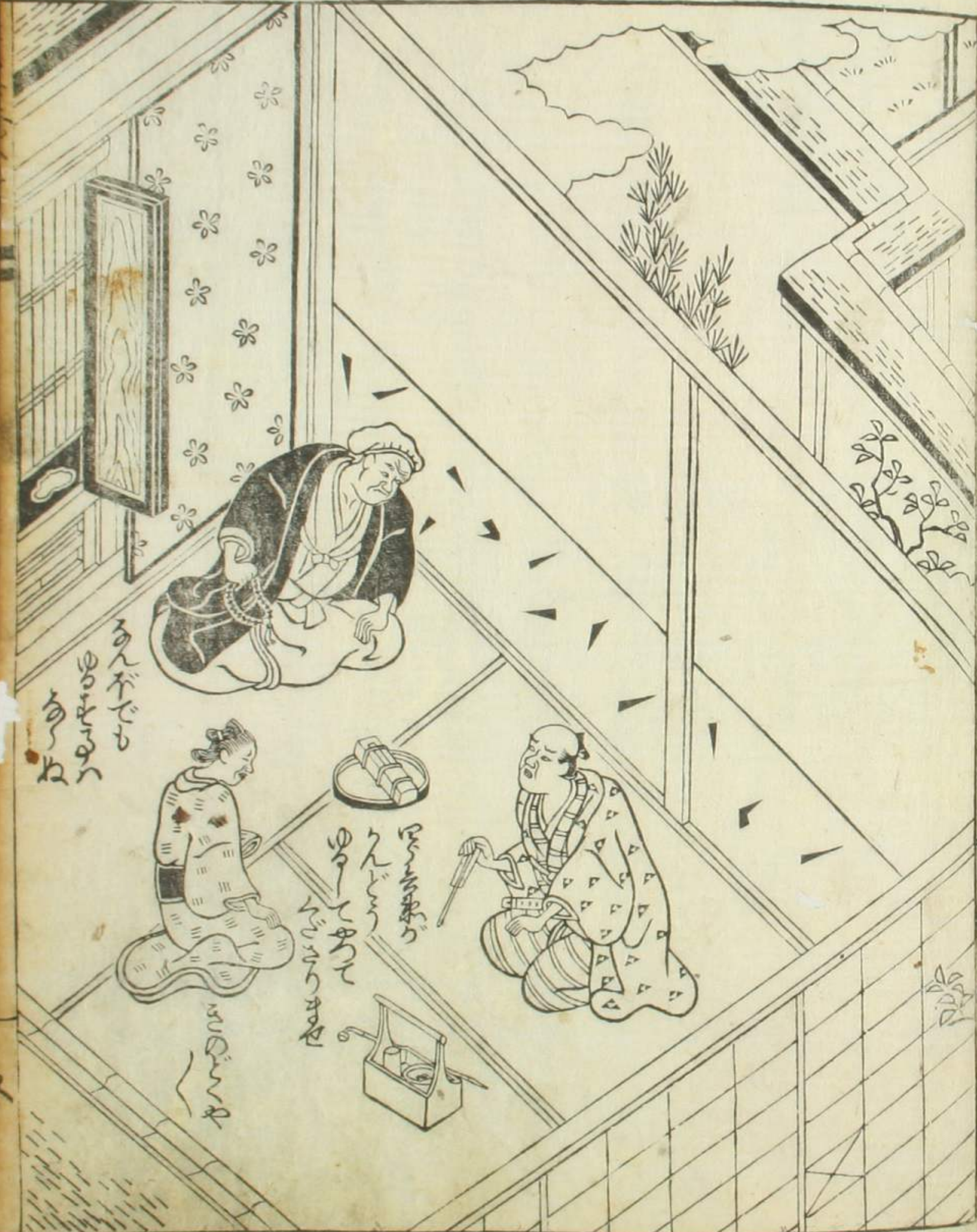
元しく大意に編まの隠れけし廿二好

解編書たまも方の上を任持と社に悟

才三

一 念仏傳の乃引ある二弦れ一曲

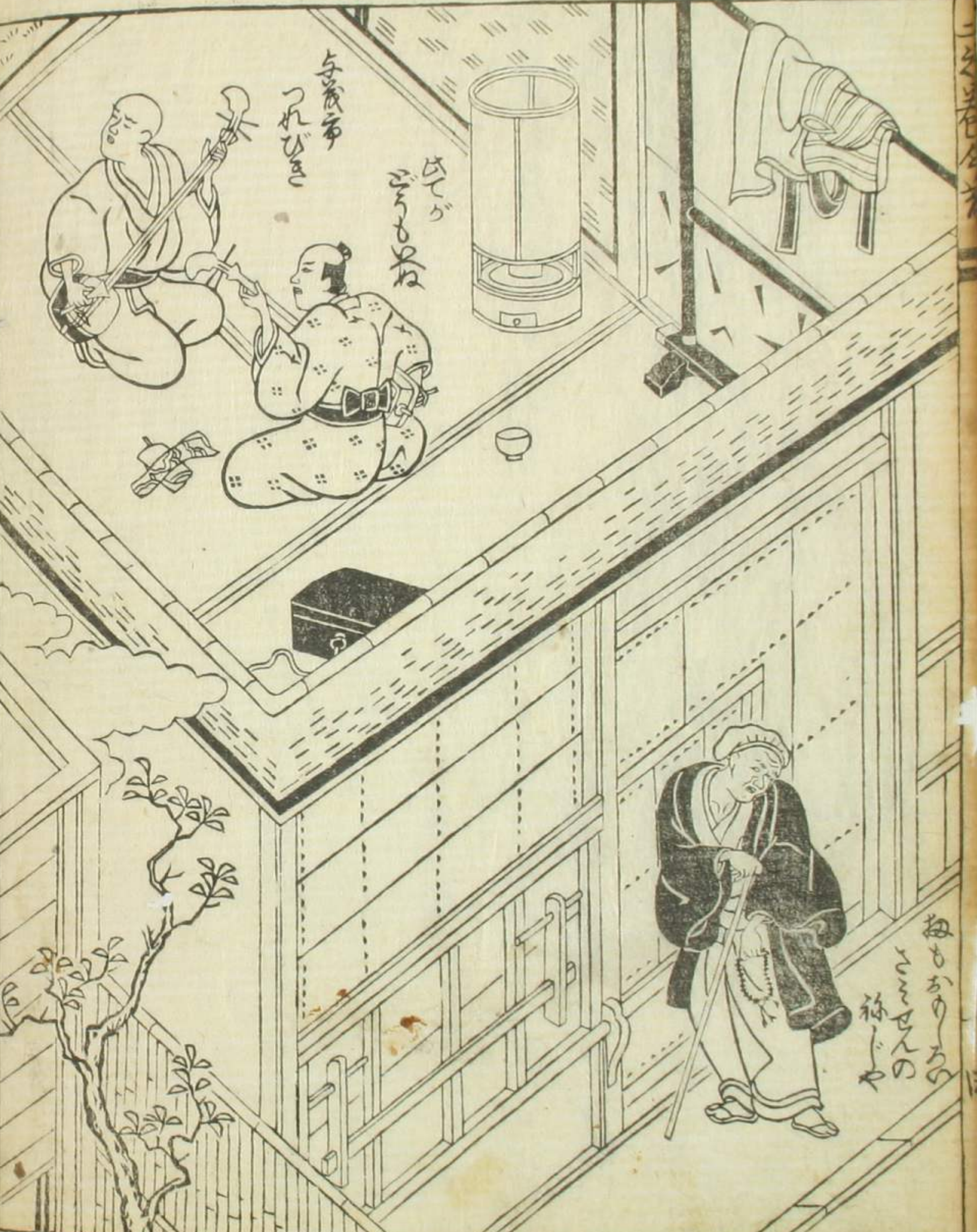
宮高南微羽のみもと音楽のなとと聖賢は成し和して玉をと流る
の用とありたり。美玉を朝とせられ。考傳はありのほし。お初めは三弦の
美玉の法と法と略して作れり。日か人の音はよりかより人よりと務れと
も。和琴の中より二とせしは糸と撥りか。三味法といふと撥りかして
自中よりあつと初よりより見よるはゆり。尺八の全神日本の音より響
ことらゆりかたどいに初よりよりあました。浮瑠璃傳の音に合ひては
尺八の音よりしては法は法をまきと合するのイヤ玉をまきたは法は
のし月恨とるてまき。更に合してはあらず。音程より浮瑠璃は法をて
尺八の法を合してはあらず。尺八の法をいふは日勝法とる。
是なるものか。後編もよれり。それよりひのひては尺八の法が



あはれでも
あはれでも
あはれでも

あはれでも
あはれでも
あはれでも

あはれでも



あはれでも
あはれでも
あはれでも

あはれでも
あはれでも
あはれでも

あはれでも
あはれでも
あはれでも

何と云ふ世よ... 三味の... 三味線...
何と云ふ世よ... 三味の... 三味線...
何と云ふ世よ... 三味の... 三味線...

(二) 三界を庵...

何と云ふ世よ... 三味の... 三味線...
何と云ふ世よ... 三味の... 三味線...
何と云ふ世よ... 三味の... 三味線...



悴中松
ふ文よそ
つれが

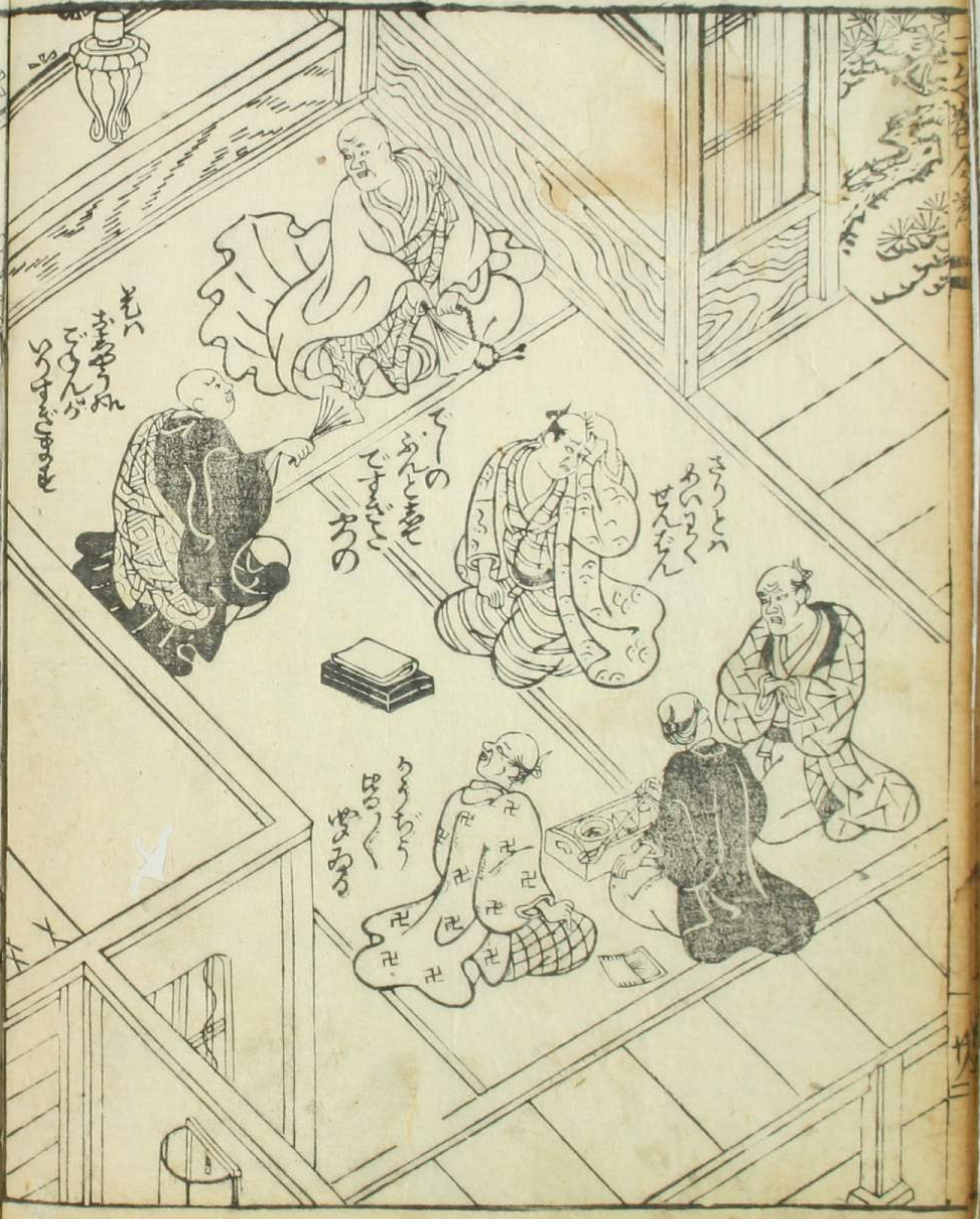
汗が今を
おろりける

あやうたは
くちけりた
あなを
やしよあひ

どい
エー
や

あも
おろ

せん



きん
きん
きん
きん
きん

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

きん
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

大その形をうみて、ありけり。とて、あつと、もたはして居るをい
ひ、又て、汗が、あて、笑、う、り、津、陽、陽、の、文、は、は、然、修、好、な、い、ま、を、付、ん、
若、人、若、人、の、才、格、と、人、の、形、も、ち、ま、ま、ん、お、の、若、人、の、修、好、な、い、ま、を、付、ん、
分、舞、女、の、乃、ぶ、お、よ、り、ず、と、治、く、わ、る、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
此、布、と、希、れ、れ、が、毎、日、小、供、よ、う、の、舞、女、と、持、ち、な、し、な、し、な、し、な、し、な、し、
此、珠、の、よ、く、様、に、縁、を、結、と、お、け、れ、ね、お、も、ま、り、お、や、の、名、目、に、も、ち、
此、あ、て、八、返、の、指、の、下、の、指、で、よ、と、大、被、中、も、な、り、な、り、産、婦、と、お、お、お、
女、の、好、ま、ゆ、り、て、希、く、は、な、せ、ま、ら、せ、は、な、ら、ぬ、ま、り、産、婦、の、身、
有、ま、い、と、人、の、指、を、さ、ま、り、い、指、に、法、を、よ、ま、り、持、ち、な、し、な、し、な、し、
津、陽、陽、の、ま、り、の、さ、り、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、
ゆ、り、な、ら、ぬ、は、な、り、お、り、い、今、お、の、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、
こ、ま、け、い、お、だ、い、が、な、と、お、ま、り、津、陽、陽、な、れ、日、お、お、お、は、な、り、
呼、集、り、て、指、を、さ、ま、り、な、り、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、
ま、り、り、大、ま、り、の、指、を、さ、ま、り、て、乳、母、が、お、も、ま、り、な、り、行、な、し、な、し、
此、若、人、若、人、の、指、を、さ、ま、り、な、り、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、
な、り、若、人、若、人、の、人、を、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、
な、り、り、若、人、若、人、の、指、を、さ、ま、り、な、り、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、
い、この、指、を、さ、ま、り、乳、母、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、
十、三、式、の、子、を、さ、ま、り、な、り、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、
お、ま、り、い、津、陽、陽、が、お、ま、り、な、り、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、
若、人、若、人、の、お、ま、り、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、
あ、り、り、か、り、り、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、
瘦、瘠、り、て、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、
い、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、

大その形をうみて、ありけり。とて、あつと、もたはして居るをい
ひ、又て、汗が、あて、笑、う、り、津、陽、陽、の、文、は、は、然、修、好、な、い、ま、を、付、ん、
若、人、若、人、の、才、格、と、人、の、形、も、ち、ま、ま、ん、お、の、若、人、の、修、好、な、い、ま、を、付、ん、
分、舞、女、の、乃、ぶ、お、よ、り、ず、と、治、く、わ、る、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
此、布、と、希、れ、れ、が、毎、日、小、供、よ、う、の、舞、女、と、持、ち、な、し、な、し、な、し、な、し、
此、珠、の、よ、く、様、に、縁、を、結、と、お、け、れ、ね、お、も、ま、り、お、や、の、名、目、に、も、ち、
此、あ、て、八、返、の、指、の、下、の、指、で、よ、と、大、被、中、も、な、り、な、り、産、婦、と、お、お、お、
女、の、好、ま、ゆ、り、て、希、く、は、な、せ、ま、ら、せ、は、な、ら、ぬ、ま、り、産、婦、の、身、
有、ま、い、と、人、の、指、を、さ、ま、り、い、指、に、法、を、よ、ま、り、持、ち、な、し、な、し、
津、陽、陽、の、ま、り、の、さ、り、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、
ゆ、り、な、ら、ぬ、は、な、り、お、り、い、今、お、の、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、
こ、ま、け、い、お、だ、い、が、な、と、お、ま、り、津、陽、陽、な、れ、日、お、お、お、は、な、り、
呼、集、り、て、指、を、さ、ま、り、な、り、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、
ま、り、り、大、ま、り、の、指、を、さ、ま、り、て、乳、母、が、お、も、ま、り、な、り、行、な、し、な、し、
此、若、人、若、人、の、指、を、さ、ま、り、な、り、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、
な、り、若、人、若、人、の、人、を、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、
な、り、り、若、人、若、人、の、指、を、さ、ま、り、な、り、若、人、若、人、の、若、人、
い、この、指、を、さ、ま、り、乳、母、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、
十、三、式、の、子、を、さ、ま、り、な、り、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、
お、ま、り、い、津、陽、陽、が、お、ま、り、な、り、若、人、若、人、の、若、人、
若、人、若、人、の、お、ま、り、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、
あ、り、り、か、り、り、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、
瘦、瘠、り、て、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、
い、若、人、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、の、若、人、

此のさきの命いなる命つとも頼むるこそ是れ月若くは此のよのよの
たは清入るごとくに秋のきこもほろぼる人なれば是れ是れは命なれば
おやくれきをいほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
のけりしなまき人の老のいほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
の年のまればいほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
少くも縁といひもといひ中を年をてつるも考ふはなれしと
ふとて秋の考もいほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
家内の方よりいほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
もく他つゝお母の考もいほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
うとどしそをいほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
ふまたていほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
と子のたまよりいほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
指うたつゝいほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
洋刺の考もいほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
人の考もいほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
ぬ考もいほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
さへいほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
うと今たまよりいほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
本指の考もいほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
今たまよりいほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
りも三粒裁の考もいほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
とされが女房の考もいほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
ふれぬ今いほげりしう深めりては秋のふちちちとあし
ちれしういほげりしう深めりては秋のふちちちとあし

二門のむらびきりてきて後とを能くするもさうさうむらびきりては
入ればとて浄瑠璃大まけり。若くはにせうさうさうさうさうさう
をれど去れは入也。浄瑠璃をまさればとて節目を要はとせし。けし
いまで初めは多松かきと。世は若くはさうさうさうさうさうさう
子代はよひ清くしてまね。世屋の身許と世屋もさうさうさうさう
清く身許なれば。元よ入り若くはまきりて世と。親親の元んとも月いず
いより市松は不役なり。毎世松を以て世屋八つと。浄瑠璃清く世
世とせし。れぬ。世屋はんと。遠く切せ離れり。元雙お世屋のまね
生れ付加。世屋はて年より入る。年松もかきして世屋
あつらと名取改め。世屋の身許と世屋。世屋はと子代世屋の若くは
とらふ。おのづから浄瑠璃清く。まきりて世屋のまね。初世の時より
清くまきりて世屋の世屋。清くまきりて世屋。今も今も浄瑠璃清く
浄瑠璃と清く。必す元より。今も今も浄瑠璃清く。今も今も浄瑠璃清く
ありし。まきりて。今も今も浄瑠璃清く。今も今も浄瑠璃清く。今も今も
取て世屋とて考へり。まきりて。今も今も浄瑠璃清く。今も今も浄瑠璃清く
あまが加世の身許かきし。浄瑠璃の世屋。まきりて。今も今も浄瑠璃清く
浄瑠璃なれば。今も今も浄瑠璃清く。今も今も浄瑠璃清く。今も今も
ありとて。まきりて。浄瑠璃とて。高の乃。まきりて。今も今も浄瑠璃清く
あまが子代。まきりて。世屋とて。今も今も浄瑠璃清く。今も今も浄瑠璃清く
浄瑠璃も清く。まきりて。世屋とて。今も今も浄瑠璃清く。今も今も浄瑠璃清く

浄瑠璃も清く。まきりて。世屋とて。今も今も浄瑠璃清く。今も今も浄瑠璃清く
浄瑠璃も清く。まきりて。世屋とて。今も今も浄瑠璃清く。今も今も浄瑠璃清く
浄瑠璃も清く。まきりて。世屋とて。今も今も浄瑠璃清く。今も今も浄瑠璃清く
浄瑠璃も清く。まきりて。世屋とて。今も今も浄瑠璃清く。今も今も浄瑠璃清く
浄瑠璃も清く。まきりて。世屋とて。今も今も浄瑠璃清く。今も今も浄瑠璃清く
浄瑠璃も清く。まきりて。世屋とて。今も今も浄瑠璃清く。今も今も浄瑠璃清く
浄瑠璃も清く。まきりて。世屋とて。今も今も浄瑠璃清く。今も今も浄瑠璃清く
浄瑠璃も清く。まきりて。世屋とて。今も今も浄瑠璃清く。今も今も浄瑠璃清く
浄瑠璃も清く。まきりて。世屋とて。今も今も浄瑠璃清く。今も今も浄瑠璃清く
浄瑠璃も清く。まきりて。世屋とて。今も今も浄瑠璃清く。今も今も浄瑠璃清く

二之巻終





梅澤

今昔出世廟

二三巻

目録

第一 古今にまゝ賑ひの神徳は

地の石佛掘出と見世物の儀

外と内と格は遠く将年が居合

務の言似れ島南を三方の所化

第二

土氏でも心穢ぬふ世に我乃れ法

村中を我俵にありと座をが徳政

昔の君は年々のまゝとて

よれ村中に於てり心の底に冥加徳

才三

喧嘩の世に物や王憲を折割執れ酒

高貴の雲泥同のちいぬ隣

力をい白ぬに味唇唇が怪我

痛いのを按て病の堪忍は後薬

① 古今にるひ眼ひ神徳に法華経

深てせむれまゝの時をわくと時を失ふとんちぬ相違なり

高貴のよまてい華貴仲貴若狭を竹細を其の味もや

おる油をみまゝで用風と用風といふ令眼後ゆけの多あり

灯挑と弱持お月瓶と都飛経も遠べし人乃れ半葉んも有ん

仏林のよに人用風佛用風林ありておる板まぬぬ幸と見たり

ゆゑに清めれ親音より六角堂の親音から利生具験が務まらぬ

わづむづれも一切を生滅の世にわづむ身色天満をそ

も法方の玉林まよりおぼを宗教するもの。そ世俗のゆゑいよそ

神徳も是儀のべくも。何れもは是の故も。信おけるも。若し

こそ致強なりんや。華貴仲貴も。時乃れの旁が神も。わづむ

是が徳とありけり。本も利伽羅の油もさうけし。種よきて。とを
張設とる。若も世らふ多し。同氣もなき。石佛をやり。おて。この
いひ。色も。香集をよして。ある。香を。支。目と。めて。下。さ。く。の。い。や
執牙を。車。して。下。さ。く。け。勝。ゆ。け。を。ま。せ。て。下。さ。し。な。ど。梳。く。の。事。た。と
い。ふ。う。せ。び。み。里。十。里。に。寄。り。て。所。あ。と。の。電。み。を。せ。て。は。れ。て。あ。る
も。み。十。四。年。も。同。の。者。と。者。を。肩。に。け。て。を。る。ゆ。り。の。お。あ。り
若も。本。ま。い。ゆ。い。よ。の。ま。や。ど。ある。半。し。も。切。ら。ど。れ。れ。ま。い。は。さ。れ。も
畜。同。の。眼。も。ゆ。ど。執。牙。も。勝。す。ま。の。病。て。う。か。後。せ。い。は。牙。う
伝。を。海。ふ。めて。ま。づ。う。三。十。日。う。み。日。う。て。張。も。破。れ。掃。去。せ。ま。し。う。ぬ
振。よ。めて。ほ。ま。た。高。土。を。立。て。安。い。神。と。る。き。石。仏。を。振。り。振。り。なる。地
そ。じ。石。佛。も。定。ら。ま。慈。み。お。ら。んと。お。り。め。く。ま。て。あ。ら。る。う。た。く。み
伊。勢。の。團。り。ゆ。り。ゆ。り。と。い。ひ。お。り。て。ゆ。け。あ。り。長。く。出。け。り。ゆ。り。と

い。ゆ。り。を。い。ひ。出。せ。し。ゆ。り。ふ。や。中。者。い。ゆ。り。勢。の。石。蓮。者。も。あ。ら。ま
勢。く。あ。る。も。ゆ。り。張。の。多。き。人。杖。を。ち。か。れ。お。し。くと。種。集
て。の。多。倍。伊。勢。の。中。の。古。来。ま。ま。の。堀。ひ。る。ち。ち。中。の。地。務。乃
若も。芝。居。目。や。地。原。大。坂。う。り。て。之。本。之。将。業。油。利。子。少。人。持。ま。い
大。坊。主。殊。大。極。を。ん。う。り。痔。疾。若。を。あ。集。めて。ま。は。り。ま。こ。ま。又。又
あ。て。る。と。る。ん。た。か。解。忌。用。て。と。年。に。あ。い。強。健。け。京。の。納。涼。も。も
利。を。ゆ。り。事。傳。よ。ち。林。文。の。少。利。生。と。も。怪。ぶ。も。お。り。ゆ。り。長。中。は
あ。ら。け。お。の。ん。せ。地。り。お。り。お。り。も。る。い。早。死。将。年。と。い。ふ。所。合。を。い
た。か。を。ゆ。り。い。ゆ。り。及。び。ど。の。ゆ。り。中。障。を。か。ん。ど。の。ど。く。種。此
地。を。ま。く。目。を。る。か。早。死。と。い。ふ。京。伊。勢。将。年。を。い。ふ。は。た。始。て。あ。る。地
か。れ。い。伝。人。孫。が。う。り。て。お。り。お。り。い。び。将。年。と。い。ふ。い。生。國。京。都。の。若。る。ゆ。り。が
ゆ。り。の。ゆ。り。ゆ。り。い。ゆ。り。と。い。ふ。ゆ。り。ゆ。り。の。天。帳。若。の。ゆ。り。出。て。相。違。の。張。設。い



時居天宮と橋を打たる人ありてを方に目を集せば。
かた内登りて強て遠者を候ふをりやん氣付よあよとまきふ所。
友のさとりをたに病合ふに氣み探りあひ。同業をき氣付と遠
きとれはやりと人な地けり。湯ををくらねきと公の西去端
あるを能く息を強てやうく。我信をねひり人病のふり
らうて。言め若ををまきてきり。は將より氣の過をせり終て。又
考夜の熱いもぬす。武藏とてふても。は宗帳場の刀を地より外
候ふ息を。けり。とて。并あるにて。人地より。あつ。は。あつ。は。あつ。
公にけり。と。武士の事。人。將業子。と。いふ。合。我。務。利。の。体。は。な
れ。と。い。は。け。り。の。用。に。も。ま。れ。馬。鹿。か。を。見。て。と。ら。ね。怪。我。を
お。め。り。向。後。か。ね。り。氣。を。五。次。三。角。り。と。異。を。を。ね。り。ね。り。
何。も。な。れ。い。も。勇。也。も。向。自。り。將。平。を。作。興。み。を。あ。せ。て。と。と。い。と。い。と。い。

ゆりぬ法をききても候いき。何てても。あつ。は。あつ。は。あつ。
孤。と。と。と。自。傳。は。り。の。将。平。も。か。り。氣。を。誰。か。せ。り。名。人。と。い。は。れ
な。が。り。き。又。い。も。な。ぞ。わ。げ。く。は。氣。の。大。は。怪。我。に。て。形。を。起。り。も
か。り。う。け。り。と。い。は。れ。ぬ。ま。り。と。と。い。と。い。と。い。

二 公氏でもいへ様もぬい共就所の使

本の曲新のまぐりの曲のの。何れも天竺のそれ。小龍興
さうなぞ。昔。傳。は。れ。た。多。氣。の。形。は。烟。作。と。い。ふ。百。姓。は。は。は。は。
付。一。傳。の。男。に。て。結。末。を。ま。す。と。い。は。れ。緒。づ。つ。と。ま。名。を。し。は。は。は。
な。れ。は。村。の。中。め。り。も。も。あ。若。と。い。は。れ。り。は。男。脚。を。た。と。い。は。れ。り。
少。精。海。め。り。を。な。を。ね。り。と。い。は。れ。り。と。い。は。れ。り。と。い。は。れ。り。
家。か。く。と。半。海。の。半。に。け。り。一。向。竹。の。也。他。の。の。在。を。と。い。は。れ。り。
昇。法。を。ま。り。ぬ。ま。れ。り。百。姓。も。後。を。立。村。中。寄。合。法。合。と。い。は。れ。り。

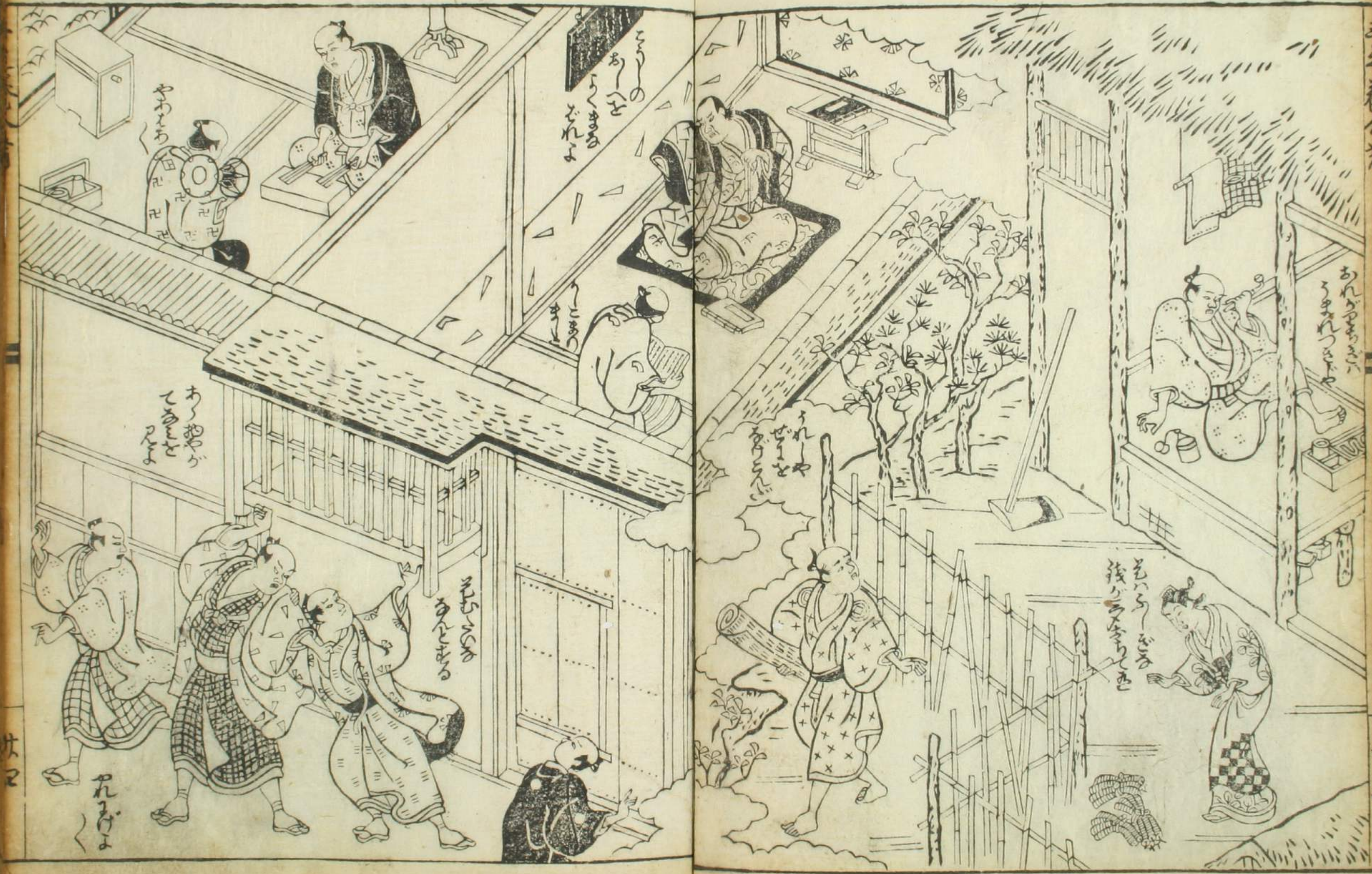
新ら我まるれ。村の元々種族を秘して来る。その由もこの由もにてある。我木
が内仕する令令く令力信く。吾母の身も皆殿所の地を信じて居る。其の
持く由てはそれを知る事としていふ。かく信じて居るといふ。然るに信ずる
氣又なれば。流砂も氣は毒るが。吾母中としてし中しく。金返して信れ
難む。信は。お首持して来る。又と書又を。由なるを。訂めて。けて信じて
さ。て。目録定さ。より。出する。信。ある。み。いつ。れ。信。ある。ね。どの。は。信。持。て。し
ゆ。も。す。い。ど。の。彼。の。元。本。の。由。人。持。て。信。お。の。ば。かく。信。お。が。よ。こ。て
月。の。走。し。と。さ。い。を。お。り。ゐ。て。西。し。書。取。の。被。れ。る。あ。り。西。び。て。信。
跡。を。お。が。し。西。度。色。を。陰。て。後。身。後。も。お。れ。お。信。て。信。お。信。の。ね。衣。
ゆ。て。信。お。が。女。房。は。信。を。お。ん。く。信。お。さ。い。て。信。の。信。お。さ。よ。乃。を。多。く。に
信。お。信。月。不。信。お。さ。い。自分。の。粉。骨。う。て。信。して。信。お。す。ま。い。と。信。お。
心。信。お。信。せ。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。
の。由。も。と。信。お。せ。と。書。て。由。なる。し。信。持。て。多。り。ま。い。と。信。お。信。お。さ。れ。て
る。お。わ。ん。が。信。お。て。さ。れ。と。信。お。信。お。を。信。お。せ。が。お。り。信。お。信。お。の。よ。信。お。
それ。こ。の。信。お。信。を。信。お。さ。い。信。お。信。お。も。く。と。る。この。書。お。信。て。有。ふ
書。お。さ。い。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。
有。り。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。
信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。
つ。と。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。
そ。の。書。の。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。
跡。と。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。
跡。を。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。
と。な。れ。ば。由。代。官。市。田。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。
希。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。信。お。

まより初くをを候を仰じが西垂の居りゆく世をみ流能てより
の百世ども親の種より多敷くも。多敷く則日けりやを身及びまひ
小を身より大を身にけれ子孫を思ふ者人ぬ。西垂ハ一旦の利便に
とりども。日月の情をみ偏ども。何れも来ハ古くもて。多敷くを社る能も。西
といふ一藝をみてかく立身ハはをれわれの藝にても曲くをさてハ立身
かりあり。西垂は病ハ病の上をさるるべし。博術に勝て人の物ごとく
せり。われ程よ言なるをじて。後令を候りとも。方もさる。善ハて。坊が戻
をまゐるる。とくも。西垂ハ。宣はく。と。ま。ざ。り。ん。や

三 喧嘩をみわく物や天意をお割靴のみれ内

西母のこ遷とらへ。擗て。仁み。所。り。れ。る。り。賢。く。必。要。と。あり。昔。人。と。必
西。き。人。と。必。初。め。り。の。方。付。仕。業。み。よ。り。多。く。た。之。の。子。ハ。腹。の。中。か
親。の。お。業。を。と。ん。お。ひ。と。ま。は。に。れ。ぬ。と。誰。も。清。子。御。家。定。を。わ。は

わがりのわらに。候を付。母親の仕業を候。て。機切。り。を。候。て。あ。り
親父の天意。へ。打。を。付。付。た。と。す。れ。ば。平。生。お。か。み。て。親。の。お。業。を
え。て。あ。る。有。ぞ。と。も。お。ひ。の。り。て。も。子。供。の。不。知。ハ。ん。善。無。事。食。一
其。所。を。見。て。ハ。之。姑。事。と。名。を。付。く。柱。の。形。業。を。と。ん。て。の。圓。や。お。盤
の。と。か。の。情。挺。五。り。と。ろ。と。ん。て。思。え。親。ハ。人。に。お。か。し。て。は。方。の。太。弟。弟。ハ
と。ん。や。う。ぬ。り。ぐ。よ。さ。み。ぬ。は。と。と。我。子。の。自。愧。影。と。れ。清。江。長。松。が。嘆
は。は。ま。の。坊。ハ。芝。居。か。く。か。の。ハ。任。業。を。為。が。名。無。が。社。無。事。と。て。は。此。後。を
自。愧。影。形。業。を。高。貴。に。候。者。は。仕。立。の。公。け。ぐ。む。る。能。も。た。も。さ。り。て
候。ま。え。ぬ。さ。を。か。ん。お。ひ。と。ろ。と。て。自。愧。す。り。ぬ。及。ば。ほ。ま。れ。相。づ。み。地。を。さ。り
善。利。若。く。と。や。さ。る。べ。と。立。身。と。と。ま。く。候。を。と。ん。お。ひ。候。も。必。さ。く。候。に。は。身
た。の。り。す。は。候。を。み。て。道。途。を。志。さ。る。者。し。わ。れ。ど。よ。々。人。の。中。に。れ。る。人。み。て
少。人。と。も。は。お。の。西。陣。を。ま。福。若。乃。若。と。孝。子。孝。弟。の。傳。若。の。目。じ。が



あしやち

あしやち
あしやち

あしやち
あしやち

あしやち
あしやち

あしやち

あしやち

あしやち

あしやち

あしやち

名を改め、東國の大王へ因かひよるを許せり。東國は備宅を建て、
家室一居し、親父たよ御百五拾石の格式ありて、大小を揃へ、
所内之職を以て受く事ありて、東國へありきり。殿の西におき、
よく、猶も若く者として、御座す。又拾石の所加増あり。二百石を
勤り目のおれ、出陣され、古系、代の衣も、
多男の親父死志の程、
み所持、
のあやほを信おして、
是より、
柳と遠い、
おりに、
分教、

是のあやまり、
しぬい、
東國の、
み所持、
同ト、
の所、
多子、
公見、
味、
わ、
ま、

第二

親の教と書院と悪性れど

糸やの息男と猪ひあさ始省れ縁

あしけと縁相あひの情の相富

あしけと二親の子に可い虫乃毒

才三

根強身所も何焼蹴破と鞠の結古

高貴より好奥の方が上気 管管意

幕用いあ世始末管氣を親あがらか

秘密に傳に一生客を尾張の團

一 吾も悪も少深ど花んれさげ重

花月夕茶酒相茶舟にあく書を弄るに眼の樂も何れ

あろうるんや。室のよんお樂いお奇を係。詩を賦してあしを

迷はるるをわたりちどぬけ者へををさへはは福徳のさる各程珠珠縁

ををらしし。お樹の下に幕門とて。何事をとるぞとて。花ん見どお

あま院酒み研係とて。寝るさうまおに有る者をほしんでにやわり

こむしある。信ぬん茶院医者。片肌後で曲統の自惚に。去来も掛て

おくある位跡と少刻。大窓を捲くあるもあ。縁押枕り腹乃

あしけのよはあしけの縁。門交姉連とて花を見て。あまはつとあさ

いのあまてあさのや。又と流の左んぬいよ。とをせり。縁治を好ま



昔の頃の生れ方にて。好いも悪いたるがごとし。仕積よりして。人
とあり。おれも有りて。悪人とも。女事と。志は。私に。おれも。好い。好い。好い。
ある。おれも。よき。よき。よき。よき。よき。よき。よき。よき。よき。よき。
中。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
を。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
せ。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
所。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
乃。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
至。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
も。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
ふ。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
十。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
烟。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
町。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
に。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
く。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
羽。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
小。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
す。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
史。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
お。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
情。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
ゆ。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。
て。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。好い。

四巻

けをよと娘の位にして守るをへるいさうが所通をさくおんは娘より

いお横玉性義勇をくしむと机のくまをさう事んをせねばいさう

地獄身と争うまへ。一交するもをそねれは。娘のおふ例みあてはえん

ころ。伊豫物がくはまぶき。海女御代ををさくさうてえんまの

娘の傍まよ不義用はて。さむく九藏のまより。ま方をは神をねも。ゆみ

まををさうまをまよりまをさくゆく物なれさう。ま面も。まの経法

のくくまをね本紙をとし。一物せんまをさくまをさくまをさくまをさく

まをまをの縁と二款あはさくまをさくまをさくまをさくまをさく

のまをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさく

二款はらまをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさく

まをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさく

目をさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさく

目をさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさく

目をさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさく

目をさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさく

目をさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさく

目をさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさく

目をさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさく

目をさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさく

目をさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさく

目をさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさく

目をさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさく

目をさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさく

目をさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさく

目をさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさくまをさく

をてせらるよ。いねん。うう。思たう。おひけらる事なれ。繪もや。いねん。
少年をいりて。多年の急男と。お名。程。う。眼中。う。い。不。二。れ。を。
抱。つ。れ。よ。め。り。ま。う。を。二。親。の。身。又。て。ご。う。て。ま。ま。を。せ。ね。り。ぬ。
折。か。る。ま。い。の。手。と。彼。急。男。を。し。し。ま。ま。り。て。ま。ね。め。る。ま。う。う。
二十四日。ま。く。親。親。を。り。い。お。ま。ね。い。ね。ん。生。活。を。思。ひ。れ。れ。母親。を。
あ。て。い。よ。く。め。ま。ま。に。め。を。持。ま。る。入。聲。に。あ。り。し。急。男。も。あ。を。
そ。う。て。不。嫁。も。あ。う。お。ち。い。り。ぬ。娘。を。ま。ま。り。て。ほ。お。り。り。
ま。れ。
あ。半。我。公。の。ま。に。め。り。ま。い。人。の。儀。を。も。い。と。ま。ま。う。う。う。う。う。
を。お。ち。り。ゆ。ん。さ。い。わ。ま。ま。に。母。親。も。あ。り。て。一。家。を。お。ち。い。り。ぬ。
て。り。ん。ど。親。き。射。り。の。風。信。を。れ。れ。今。文。忠。と。ま。ま。の。ま。ま。も。
馬。の。身。を。ま。ま。の。ま。ま。に。め。り。ま。い。ま。ま。の。ま。ま。に。め。り。ま。い。
の。ま。ま。に。め。り。ま。い。の。ま。ま。に。め。り。ま。い。の。ま。ま。に。め。り。ま。い。
れ。
重。信。を。い。り。ぬ。娘。を。め。り。ま。い。の。ま。ま。に。め。り。ま。い。
に。限。り。し。め。り。ま。い。の。ま。ま。に。め。り。ま。い。の。ま。ま。に。め。り。ま。い。
あ。れ。
大。度。を。持。り。ぬ。と。い。い。ん。と。い。い。ん。と。い。い。ん。と。い。い。ん。と。い。い。ん。
十年。あ。ち。の。娘。ま。ま。を。め。り。ま。い。の。ま。ま。に。め。り。ま。い。
娘。の。急。性。の。ま。ま。に。め。り。ま。い。の。ま。ま。に。め。り。ま。い。
お。は。は。い。り。ぬ。急。性。を。ま。ま。に。め。り。ま。い。の。ま。ま。に。め。り。ま。い。
を。ま。ま。に。め。り。ま。い。の。ま。ま。に。め。り。ま。い。の。ま。ま。に。め。り。ま。い。
に。内。使。通。追。つ。て。昔。の。格。様。を。ま。ま。に。め。り。ま。い。の。ま。ま。に。め。り。ま。い。
お。と。ね。り。女。房。に。あ。り。ぬ。と。い。い。ん。と。い。い。ん。と。い。い。ん。と。い。い。ん。

根を五州の人女房にむら共もなくがは所のとてんたりぬ婦人
 きれおのどとら女にまゝ屋くの妻とあつてあつじが生れぬ前字
 も是用若りね親のかけでもおれせひもまの娘おはふ付さし
 てあつら母ふまの海捕まの女の所住に氣を存仰道おしておひ
 おあつら親もよく弾おあつらわけ目るまを發め若るね本業死云の
 後内入て申あともり奥帳と考致せしむねそれたけお換奥帳
 をあつと先後の子におもやとりつ娘をまのしらひ言て微塵
 もおまはりるをまの娘おもやも継母の漁りく何するにもあつら
 ぬみ言うま若りに申つねお積そ若方志田屋に申先し時り家
 ねをこれ洲津海をれば今おあが秘なるる娘をまて我まに始終
 をおしおは母子たよにあり継者の古まの娘をとりて重けお若
 乃のりあ入産信守くまらひるがもよの内に合お娘をそ娘
 ちておははを嫁入るせまする娘のまこれ娘は今おあ本の女房とる
 来性の好とれおの愛の遠いお代とら六町人のあ本乃半
 ちれおははが男にやておあつらまき事するまどや

三 根強し身狭し 朽爛破と鞠の種吉

聖賢の教れり有効力則つて是を以て六領者者の身おとの半
 其の深うとらと士農工商の道にもしおあ本一我お金
 不持家業に精をわけても度くはへ何の事も我の病を種若
 るべし我誠分を志布えんせひは海猫瑠璃球線のとまきお氣物ま
 似放下所の種り半とおはつておあつらもあつらも継子文の志
 吾連秋茶のたに精と申鞠揚り若お若も其法に委く
 ともいふ家の業をみいして後世よはひせむを奇特を人との秋火
 かに今母の人お孫もよくと氣に志お希なり多お我好まらへ

松を登りし折を以て新を著しむるにのちを縁し心として一す
乃のほまてみ方し居て茶臼に茶臼を核りて音森に役
老の中なる入る昔我朋友にや一人の茶臼持て者或依に針立坊
按摩坊もめて茶と扱ふ物ぞと今昔茶の所は茶臼のり
すのつどわしやの林を東といふ若かり製代積るるふ湯を
きり一切のふ臭をどけりといゆゆかく道具茶に新茶町内み
すといふ用よりいしお茶をいへ借りたりべ傳の茶をわし町中
も字字の半にさひくる林を東初かめて茶臼に作るれ母親を人
よて茶臼の茶臼い茶臼の白氣を忠告とと若き子の
林を東すみの茶と茶の世伝はては茶臼りもや下人に茶をわし
茶臼を伝へしと茶の世伝はては茶臼りもや下人に茶をわし
はて茶をわしと茶の世伝はては茶臼りもや下人に茶をわし

舟を並ぶる者なりよふくと人の移るにひひのりよく茶をわし



一こそ指す。此方を歩む。程多く病氣は。一を病め
翰を礎。身も多。天意を利て。奇好。頂礼。地産。新。迦。の。跡
屬を。接。念。して。地。産。の。和。後。を。業。として。一。生。を。終。り。する。事。な
町人の身。と。病。い。て。も。病。が。て。種。を。名。を。き。ま。す。や

四之巻終 

▲扱おみりよまきる

河漕浦三巴 全五卷

古く本道正二月二日より出。一。巻。中。に。い。る
以。實。に。ら。ん。ら。終。り。す。り。す。り

今昔出世廟 六之巻

目録

第一 陽着てハ碎ても後を忠告の望

願。た。め。も。三。せ。ぬ。上。戸。に。寄。合
足。不。ハ。揮。く。目。の。出。れ。お。終。ハ。出。杭
お。ぬ。れ。と。返。答。し。り。も。別。ひ。る。た。け。働




才二

財宝のま代根の蔓と大藪長者

種々のわれ足どりある石白鹿

揚弓のそれ夫の列陣の冬丸は心

異見乃所極存指の経のまは

才三

兄弟の家業の晴く火の穿火弁

出せの畜いふも見ぬ庭をれま

健たれ軍法流れを汲今川の

飲の方便あくる候頭咀吐く

一 沙着てい碎ても管をまきたれ

世方の世居に細く食之他事といひきりて

くろくも是も世といふは徳の詞なりと声

酒を乃門を穿る付酒は自いれ鼻の空を

射る者の奥は咽を鳴らんと是酒と者

と飛りく上戸の癖なり假神は寄合ても

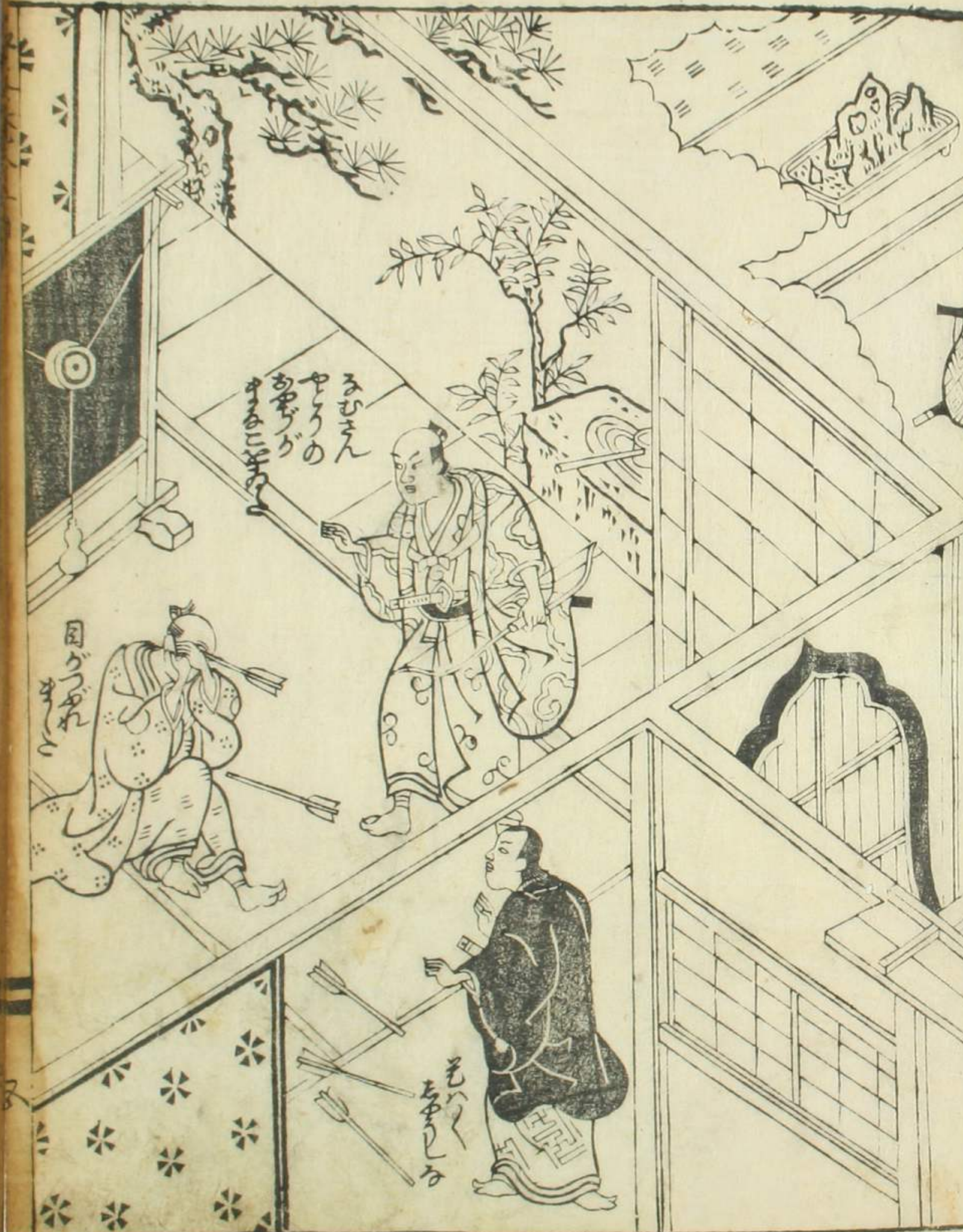
に形は似て如味はが社のけ毒が社の或

社のもろびじごらんりして社ほよとの

和名を社と云ひくそりくの係判を中

春の影に返居して夕ぐぐむと居て

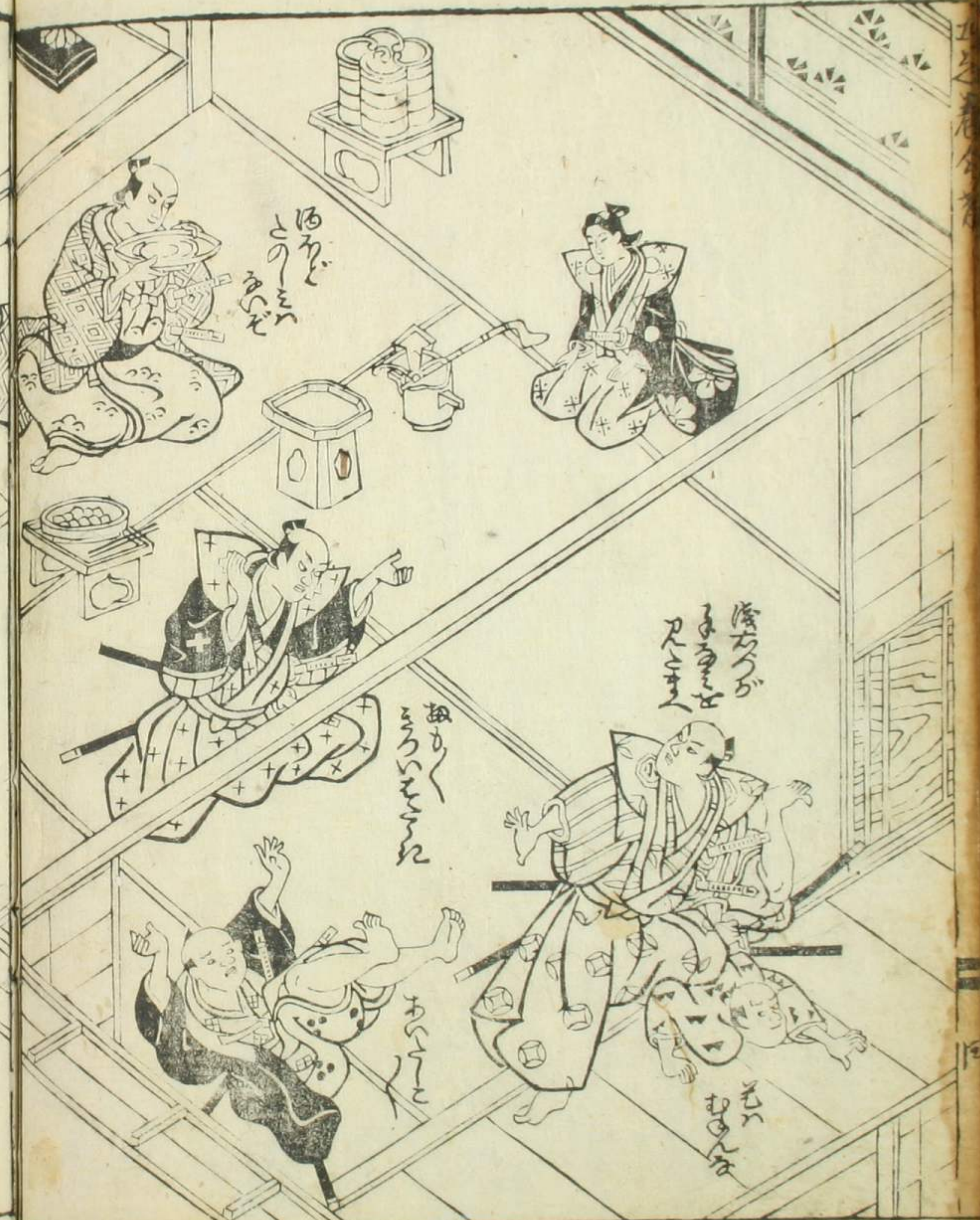
とても下たといふ其の深きしひ考る



みむん
やうの
あやうの
まふにやう

目くつ
あやう

まはく
まきしち



ほろい
このま
あやう

あやうの
まふにやう
あやう

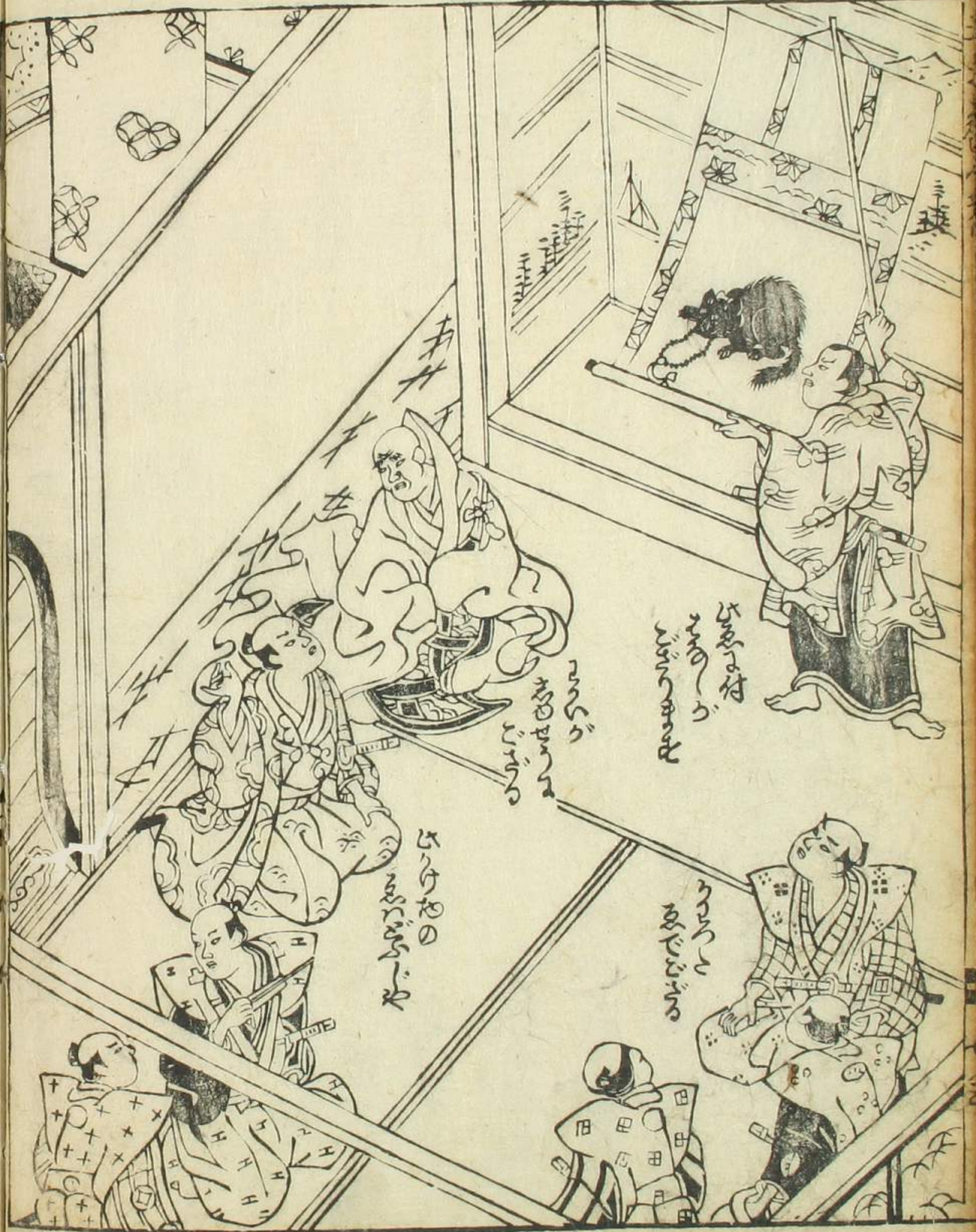
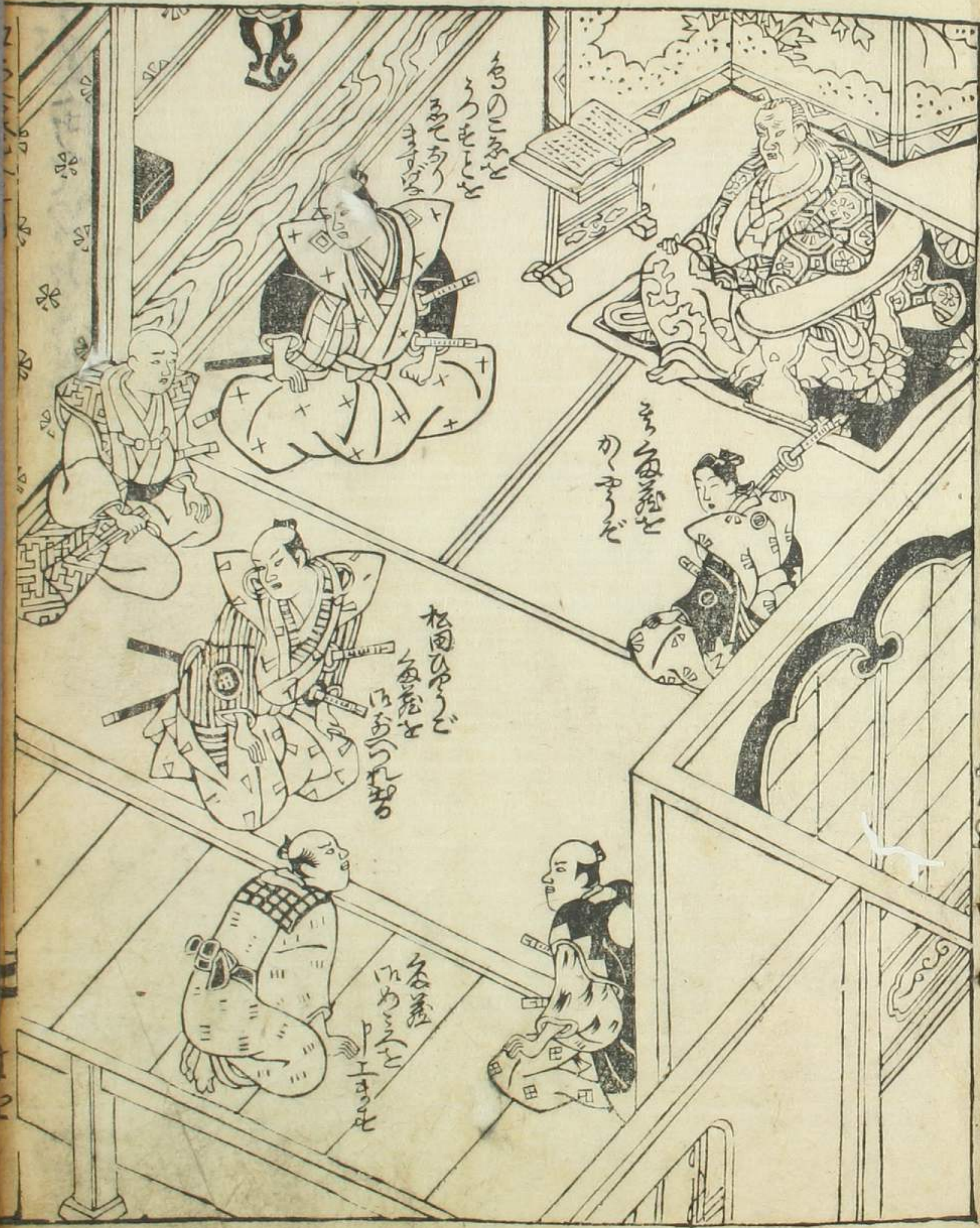
あやう
まふにやう

あやう
まふにやう

あやう
まふにやう

我を知りしやわろくも不福なれ。是をいふもにて我をよき者とし若
 けきくに海を人かくとがけし。命をかくぬ空氣うると。大まにいふま
 鳴まぶ。乱るまてこれのう。大勢の持重者を抱へて。法蔵と稱
 たり。若くも。文に何れ。法蔵も。持のめられ。生か。あつ。命を執る。若
 老をいふ。もし。法蔵。と。化。法蔵。を。命。い。ふ。法。蔵。に。生。一
 と。れ。と。あ。つ。の。め。れ。法。蔵。の。入。り。ん。と。持。重。者。の。追。及。ん。て。
 世。法。も。や。た。法。蔵。と。も。お。似。た。に。海。信。し。傍。を。依。靠。し。堂。宇。を。建。立。す。
 かく。して。山。本。を。ま。ま。其。の。法。氣。小。わ。り。と。び。世。の。入。の。口。を。け。必。貴。
 伊。集。の。後。生。ま。て。名。は。や。り。夫。れ。法。蔵。の。お。り。に。世。法。を。考。へ。て
 山。月。に。掛。け。り。足。指。と。お。り。法。氣。を。好。む。お。り。珠。板。が。其。中。の。中。に
 徑。向。を。ら。か。く。り。て。行。を。崩。れ。し。て。日。我。く。を。み。て。山。月。に。掛。け。り。
 法。生。氣。に。め。も。こ。や。珠。板。を。密。へ。て。ゆ。り。ゆ。り。お。の。を。ら。ふ。殺。せ。し。ゆ。
 我。く。を。時。時。と。も。有。り。い。と。崩。れ。し。て。山。月。に。掛。け。り。珠。板。の
 法。氣。を。た。た。い。珠。板。を。捨。て。崩。れ。を。お。も。と。す。山。月。に。掛。け。り。山。月。の
 法。氣。の。伝。通。氣。を。若。く。と。い。ふ。丁。と。お。り。人。の。法。蔵。を。稱。え。り。と。若
 脚。身。は。作。法。を。た。た。い。珠。板。を。お。も。と。す。佛。を。寄。崇。を。建。立。し。て。若
 し。指。の。珠。板。を。密。へ。て。と。い。ふ。若。く。と。い。ふ。お。の。持。重。者。の。法。氣。は。遠。く。を
 及。び。ゆ。り。ゆ。り。傳。へ。し。と。い。ふ。お。の。持。重。者。の。法。氣。は。遠。く。を。及。び。ゆ。り。ゆ。り。
 山。月。に。掛。け。り。法。蔵。の。法。氣。を。た。た。い。珠。板。を。捨。て。崩。れ。を。お。も。と。す。山。月。に。掛。け。り。
 の。山。月。に。掛。け。り。法。蔵。の。法。氣。を。た。た。い。珠。板。を。捨。て。崩。れ。を。お。も。と。す。山。月。に。掛。け。り。
 若。く。と。い。ふ。山。月。に。掛。け。り。法。蔵。の。法。氣。を。た。た。い。珠。板。を。捨。て。崩。れ。を。お。も。と。す。山。月。に。掛。け。り。
 指。重。者。を。始。め。山。月。に。掛。け。り。法。蔵。の。法。氣。を。た。た。い。珠。板。を。捨。て。崩。れ。を。お。も。と。す。山。月。に。掛。け。り。
 山。月。に。掛。け。り。法。蔵。の。法。氣。を。た。た。い。珠。板。を。捨。て。崩。れ。を。お。も。と。す。山。月。に。掛。け。り。
 を。い。て。山。月。に。掛。け。り。法。蔵。の。法。氣。を。た。た。い。珠。板。を。捨。て。崩。れ。を。お。も。と。す。山。月。に。掛。け。り。

我を知りしやわろくも不福なれ。是をいふもにて我をよき者とし若
 けきくに海を人かくとがけし。命をかくぬ空氣うると。大まにいふま
 鳴まぶ。乱るまてこれのう。大勢の持重者を抱へて。法蔵と稱
 たり。若くも。文に何れ。法蔵も。持のめられ。生か。あつ。命を執る。若
 老をいふ。もし。法蔵。と。化。法蔵。を。命。い。ふ。法。蔵。に。生。一
 と。れ。と。あ。つ。の。め。れ。法。蔵。の。入。り。ん。と。持。重。者。の。追。及。ん。て。
 世。法。も。や。た。法。蔵。と。も。お。似。た。に。海。信。し。傍。を。依。靠。し。堂。宇。を。建。立。す。
 かく。して。山。本。を。ま。ま。其。の。法。氣。小。わ。り。と。び。世。の。入。の。口。を。け。必。貴。
 伊。集。の。後。生。ま。て。名。は。や。り。夫。れ。法。蔵。の。お。り。に。世。法。を。考。へ。て
 山。月。に。掛。け。り。足。指。と。お。り。法。氣。を。好。む。お。り。珠。板。が。其。中。の。中。に
 徑。向。を。ら。か。く。り。て。行。を。崩。れ。し。て。日。我。く。を。み。て。山。月。に。掛。け。り。
 法。生。氣。に。め。も。こ。や。珠。板。を。密。へ。て。ゆ。り。ゆ。り。お。の。を。ら。ふ。殺。せ。し。ゆ。
 我。く。を。時。時。と。も。有。り。い。と。崩。れ。し。て。山。月。に。掛。け。り。珠。板。の
 法。氣。を。た。た。い。珠。板。を。捨。て。崩。れ。を。お。も。と。す。山。月。に。掛。け。り。山。月。の
 法。氣。の。伝。通。氣。を。若。く。と。い。ふ。丁。と。お。り。人。の。法。蔵。を。稱。え。り。と。若
 脚。身。は。作。法。を。た。た。い。珠。板。を。お。も。と。す。佛。を。寄。崇。を。建。立。し。て。若
 し。指。の。珠。板。を。密。へ。て。と。い。ふ。若。く。と。い。ふ。お。の。持。重。者。の。法。氣。は。遠。く。を
 及。び。ゆ。り。ゆ。り。傳。へ。し。と。い。ふ。お。の。持。重。者。の。法。氣。は。遠。く。を。及。び。ゆ。り。ゆ。り。
 山。月。に。掛。け。り。法。蔵。の。法。氣。を。た。た。い。珠。板。を。捨。て。崩。れ。を。お。も。と。す。山。月。に。掛。け。り。
 の。山。月。に。掛。け。り。法。蔵。の。法。氣。を。た。た。い。珠。板。を。捨。て。崩。れ。を。お。も。と。す。山。月。に。掛。け。り。
 若。く。と。い。ふ。山。月。に。掛。け。り。法。蔵。の。法。氣。を。た。た。い。珠。板。を。捨。て。崩。れ。を。お。も。と。す。山。月。に。掛。け。り。
 指。重。者。を。始。め。山。月。に。掛。け。り。法。蔵。の。法。氣。を。た。た。い。珠。板。を。捨。て。崩。れ。を。お。も。と。す。山。月。に。掛。け。り。
 山。月。に。掛。け。り。法。蔵。の。法。氣。を。た。た。い。珠。板。を。捨。て。崩。れ。を。お。も。と。す。山。月。に。掛。け。り。
 を。い。て。山。月。に。掛。け。り。法。蔵。の。法。氣。を。た。た。い。珠。板。を。捨。て。崩。れ。を。お。も。と。す。山。月。に。掛。け。り。



のそとに有る。其の医共にもあつてまゝなり。産後の子まゝに先
夜堂の初産を引張僕も持せし。柳灯より産の老より強いの
母抱いたるをいぞや。病固る根を定めて候と産せしぬを
て人を殺しより迷うると。中傳或向の病にも記せり。ぬを
人を殺さざる身急而傳せしれ。死利よりそれ下とを本本に
生え終る。轉放産原より医者定候まゝなり。中。奇者
も何の物もにて。人の氣にてこれごとく併れせり。是を
の音より。産後世の相言はれ。初産は産に似。産が
おのれ終る。今おのれ終る。中。奇者定候まゝなり。中。奇
乃姑抱に生後し。産せしぬを定めて候と産せしぬを
さつと。中。奇者定候まゝなり。中。奇者定候まゝなり。中。
有る中。奇者定候まゝなり。中。奇者定候まゝなり。中。奇
ありしを。産後世の相言はれ。初産は産に似。産が
おのれ終る。今おのれ終る。中。奇者定候まゝなり。中。奇
乃姑抱に生後し。産せしぬを定めて候と産せしぬを
さつと。中。奇者定候まゝなり。中。奇者定候まゝなり。中。
有る中。奇者定候まゝなり。中。奇者定候まゝなり。中。奇

又之巻終

▲板垣のりやよまのり

鎌倉頼家栄産記

武徳鎌倉日記後編

全約十二卷
新板ひらき子繪入

繪本池の蛙



西川祐信筆
全部三卷

世の事 俊者福寿の想
大評判 三平の辨義忠定

全部三卷

あゝ三巻をぬき正月二日かきし
あゝ三巻をぬき正月二日かきし

延享二年 正月吉日

多摩町海世のりやよまのり
父字を八巻の板

